



アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。



チェプル(魚皮衣)

本田優子(札幌大学教授)



ア

イヌの衣服文化は、バラエティに富んでいま
す。なかでも、主に樺太アイヌの人たちが魚の
皮で作った衣服「チェプル」(チエプリ魚、ウル皮衣)は
圧倒的存在感。日本語では魚皮衣と訳されますが、以
前授業で「魚皮衣」を連発したら学生に「こ言われま
した。」先生、やめてーギョヒーって叫んでるようになし
か聞こえないー」(笑)。以来、もっ
ぱらアイヌ語を使っています。

北海道アイヌの衣服は和服に
似ているけど、チェプルは前開き
ワンピース型。背びれなどを切
り取ってできた穴には、色の違
う部分の端皮や布を縫い付け
きれいな文様にするなど、形も
文様も北方との強いつながりを
感じますね。北海道アイヌも布
の上に布を置く、いわばアップリ
ケの手法で文様を作るけど、こ
れは和服にはほとんど見られ
ない手法なので、魚皮衣の影響だとも言われます。

チェプルを作るには、サケ・マス・イトウのような大型
の魚の皮を剥いで、なめしてから縫ってつなぎ合わせる
んだけど、だいたい五〜六十匹くらい必要だったとの
こと。北海道アイヌも鮭皮のチェラケレ(魚の靴)は使っ
てたけど、なめす技術は、樺太アイヌ、そしてさらにア



イラスト/山丸ケニ

ムール川流域などの北方諸民族、たとえばナナイやニ
ブフの人々の方が優れていたみたい。私が持つるナ
ナイの魚皮衣(ミニチュア)を授業で回覧すると、学生
たちはその手触りの良さにいつも驚きます。

国立民族学博物館名誉教授の大家和義さんによれ
ば、ニブフの人たちの方法は次の通り。まず魚の皮を剥い
で、肉片をそぎ落としてから乾
燥させます。それから魚卵など
で作ったなめし液を用いながら、
その魚皮を叩きます。そのため
の特殊な台と木槌もあります。

何枚も重ねて畳んだ魚皮を二時
間も叩くうちにウロコがとれて
柔らかくなり、裏側は綿毛のよ
うにフワフワになるとのこと。

でも私は以前、こいつい話も
聞いたんですよ。二番良いの
は人間が上下の歯で挟んで唾
液と一緒に何回も何回もしごく

こと。極上のなめし皮になる」。ちょうどその頃、ニブ
フの方々が来道してアイヌ民族文化祭で芸能発表を
されました。主役級のおばあさんが舞台でにつこり笑
われた時、前歯がほとんどなくて驚いていたら、公演
後に「あれは、魚皮をずっと歯でなめしていてすり切れ
たんだって」と聞き、心底感動したものでした。



次回のテーマは「カンナカムイ(雷神/龍神)」
村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)が
担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トラレップン」



イランカラテ
「こんにちほ」からはじめよう。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。